

新「信州学」推進事業

教学指導課

1 現状と課題

(1) 現状 地域について学ぶ機会は小学校、中学校、高校の順で減少している。

教科及び総合的な学習の時間で地域について学習する学校（小学校）	100%
教科及び総合的な学習の時間で地域について学習する学校（中学校）	72%
地域の人が教育活動への支援を行っている学校（高校）	47%

(2) 課題

グローバル化が進む社会においては、主体的に生きる力の基礎となり「根」となる、自らが生まれ育った地域の文化・産業・自然を理解し、ふるさとに誇りと愛着を持ち、ふるさとを大切にす心情の涵養が求められる。

2 目指す姿

すべての小・中・高校において、長野県の風土を理解し、地域に参加する「信州学」を創成していく‘人財’を育成する。

3 事業内容

(1) 高校における「信州学」推進事業

○「信州学」研究委員会の設置

学校関係者及び有識者により、「信州学」の定義の確立、素材収集、効果的な学習方法（探究方法）、指導方法を研究。

○「信州学」研究モデル校の設置（高校3校）

・「信州学」の内容として研究可能な取組に実績があり、平成27年度も同様の取組を実施する学校をモデル校（3校）として指定。

・「探究活動」（アクティブ・ラーニング）型の地域の歴史・文化・産業等の学習方法を実際の教育課程の中で研究し、その取り組みに係る情報を研究委員会に提供。

「信州学」推進の行程

・H26年度まで

一部の県立高校が特色の一つとして地域を学ぶ学校設定教科を設定し、近隣の歴史や文化、産業を学んでいる。また、職業科の多くは地域と密接に連携する学習活動を実践。

・H27年度（「信州学」元年度）

研究モデル校（3校）における実践事例を「信州学」研究委員会にて具体的に研究し、「信州学」の定義を確立。

・H28年度

県立高校へ「信州学」の導入

(2) 県立歴史館との連携

・小中学校における「信州学」の授業や、高等学校における文化系部活動に際して、県立歴史館専門主事等による指導及び施設・資料の活用を積極的に促す。

・「信州学」研究委員会における研究について、県立歴史館との連携を積極的に行う。

4 平成27年度予算額 115万4千円